

富雄丸山古墳の史跡整備と出土品公開施設建設のための財政支援について

【担当省庁】文部科学省、文化庁

市町村における取組

(現状・課題)

奈良市西部地域は大阪と奈良を結ぶ暗峠奈良街道が通り、富雄川に沿って郡山城や斑鳩地域へとつながる古代以来の交通の要衝地です。周辺には追分本陣村井家住宅・霊山寺・登弥神社などがあり、大和の英雄ナガスネヒコ伝承の舞台としても注目されています。

奈良市では、この地域の周辺観光を促進するための新たな拠点づくりを目指し、奈良県が2024年に運営開始した道の駅と連携して、地域活性化に取り組んでいます。

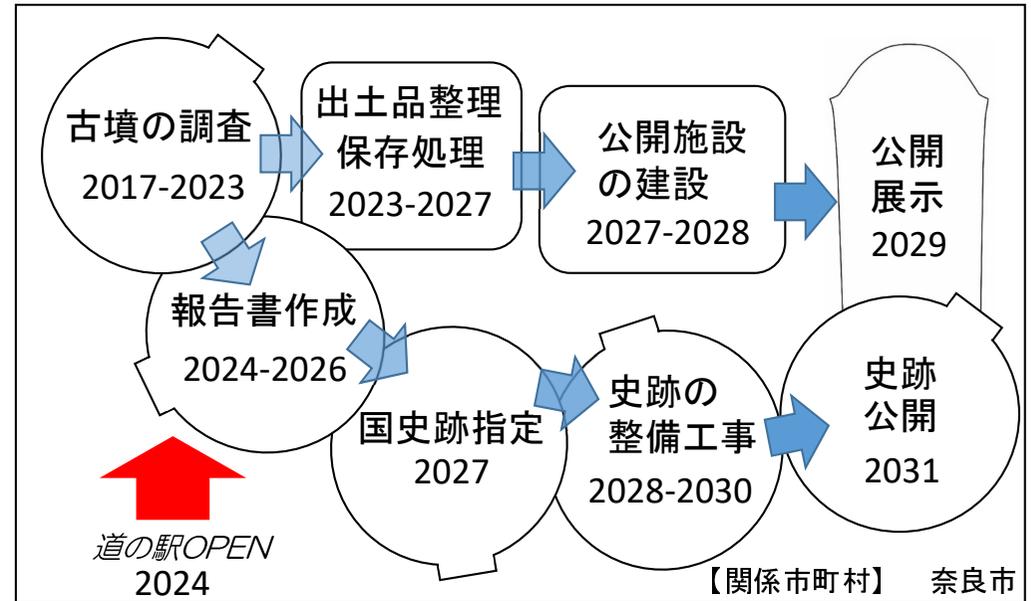
富雄丸山古墳はその中核的な文化財の一つで、西部地域のランドマークとして大きく活用できる魅力を持っています。そこで、平成29

(2017)年から国史跡指定と古墳活用を目的とした調査を続けてきました。その結果、直径109mの規模で国内最大の円墳となることが判明しました。令和4年度には、造り出しの粘土槨から東アジア最大の鉄剣(蛇行剣)と他に類例のない盾形銅鏡が出土するなど大きな成果が得られました。令和5年度には、従来の調査では未確認であった粘土槨の具体的な構築方法を解明するとともに、極めて良好な状態で出土した全長約5.6mの木棺内部の調査を進め、想定されてきた古墳時代の長大な木棺内部の典型的な空間利用を実物の棺で確認することができました。

現地見学会には、令和4・5年度ともに2日間でのべ4,500名以上の見学者が訪れました。

また、令和5年度から6年度にかけて、奈良県立橿原考古学研究所附属博物館で開催されました蛇行剣の特別公開では、見学者が8日間でのべ16,000名にのぼりました。

富雄丸山古墳は全国的にも注目されており、来訪者が絶えません。



国にお願いすること

- ①文化財保存事業費関係補助金交付要綱の規定に基づく現行の財政支援(国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金)は、単年度事業を対象としている。極めて良好な状態で出土した全長約5.6mの木棺の恒久的な保存処理業務では、単年度ごとの工程を明確にした上での業務遂行が困難な場合も想定されるため、複数年度にわたる財政的支援を求める。
- ②地域の特色ある埋蔵文化財活用事業費国庫補助要項に基づく現行の財政支援は、補助対象事業が施設の収蔵・防災及び展示・活用設備整備ならびに展示設備の整備のために行う事業である。極めて貴重な鉄剣(蛇行剣)と盾形銅鏡等の公開活用施設の建設に伴い、現行補助対象外である施設整備に係る広範な財政支援の創設を求める。
- ③富雄丸山古墳の史跡指定に向けた取組への行政的支援を求める。
- ④上記①②を事業実施するために十分な予算規模の拡大を求める。